

脳神経外科専門医に聞く

富山労災病院 脳外科副部長 なかしま 中島 よしお 良夫



H28年 新病院完成予想図

認知症について 「どこが違う？ 認知症の物忘れ」



今回より3回にわたり「認知症」についてのお話になります。認知症は、脳の神経細胞の異常が原因で起こる「変性性認知症」、脳梗塞や脳出血など脳の血管の異常が原因で起こる「脳血管性認知症」、脳外傷や脳腫瘍、脳炎などで起こる「その他の認知症」などがあります。

この回は、認知症の症状である「もの忘れ」の特徴についてお話しします。

人は誰でも年齢とともに、「もの忘れ」が多くなりますが、普通はあまり進行しませんし、もの忘れの自覚もあります。しかし、認知症の方は、脳の細胞が死んでいってしまうために、まず、「もの忘れ」の自覚がなくなり、徐々に進行し日常生活や仕事に支障がでてきます。加齢によるもの忘れでは、「朝ごはんのメニュー」を忘れますが、認知症によるもの忘れでは、「朝ごはんを食べたこと」自体を忘れてしまいます。

認知症の症状では、初めは、「人の名前を忘れる」「物をしまった場所を忘れる」「約束を忘れる」などですが、進行すると「通勤の道を間違える」「家の中で台所とトイレを間違える」「買い物へ行って同じものばかり買ってくる」「自分の年齢がわからない」「鏡に映った自分を他人と思って話しかける」ようになります。重症になりますと、「暴言、暴力など、人格がかわる」「徘徊する」ようになります。

当院の脳神経外科では、「もの忘れ外来」を行っています。そこでは簡単な問診とCTスキャンを行います。認知症を治すことはできませんが、薬で進行を遅らせることは可能です。多くは、かなりもの忘れや人格の変化が進んだ段階で受診されますが、この段階で薬を飲んで効果は望めません。家族の方が注意して「何かおかしい」と気づき、「早め」に病院を受診され、「認知症」と診断されたら、早くから「薬をのむ」ことが、その後の人生をより楽しく過ごすポイントになると思います。薬は、塩酸ドネペジルとメマンチンがあります。発見が早ければ早いほど認知症の進行を遅らせる可能性は高くなります。また、CTスキャンで、手術が可能な「慢性硬膜下血腫」「水頭症」が見つかることもあります。

このように認知症以外の病気が隠れている場合もありますので、是非受診をお勧めします。

物忘れ外来のご案内（脳神経外科外来）：（火）（木）午前10時～12時です。

＜健康診断部では、「精密検査必要」と言われた方の受診予約（電話）を受けています。＞

待ち時間が少なく、スムーズに受診を受けられます。特にお仕事をされている方、多忙な方はどうぞ地域医療連携室（下記）にご連絡ください。

直通 0765-22-1354（平日9:00～16:00）

富山労災病院では、緊急に受診を希望される方の受付を行っています。

症状を自覚した時、夜間・休日の救急外来の時間まで待たずに来院してください。

事前に電話されるとスムーズに診療できます。

電話 0765-22-1280（病院代表）